

春を寿ぐ

—徳川将軍家のみやび—

企画展



- 常設展のみどころ 平成30年 新指定重要文化財「蔓梅擬目白蒔絵軸盆」
- キュレーターズ・チョイス 江戸博コレクションから「鹿島明神 各地の鯰退治の図」



綱島家の井戸の注連飾り

たてももの園の正月の風景と 冬の年中行事

クリスマスの飾りを片付けたら一気に「正月飾り」を飾る。日本の街中では、こうした年の瀬の風景が、ごく普通となっています。国際化が進む現代でも、一年の始まりはやはり古式にのっとり迎えたという気持ちの表れでしょうか。洋風から和風へと街中が一変する様子は鮮やかです。

歳神様を迎えて一年の幸運と健康を祈るための正月のお飾りに、門松、注連飾りがあります。建物の入口に門松を立て、清浄な空間に神を迎えるという考えのもとに、色々な場所に注連飾りを飾ります。近年、一般家庭では省略化の傾向にあるこの習慣を、園内各所で再現します。正月の時事にしか見られないたてももの園の風景です。どうぞご覧ください。

正月のように毎年慣例的に行われる行事を「年中行事」といい、茅葺民家の「綱島家」では聞き取り調査を元に様々な年中行事を再現しています。2月3日には節分を行います。現在の住宅環境ではなかなか豆をまけないこともあり、たてももの園で思いっきり豆をまいて、福を呼びこみましょう。

催し物のご案内 冬期ふれあい体験教室

当日受付教室

* 開催場所は、常設展示室5階ミュージアム・ラボ

● 和算パズル

日時:1月5日(土)、3月2日(土)
各日13:00~15:30(受付終了15:00)
対象:小4以上

● 反古紙で折る小物

日時:1月5日(土)、3月2日(土)
各日13:00~15:30(受付終了15:00)
対象:小学生以上

● 歌舞伎の鳴り物を鳴らしてみよう

日時:1月19日(土)、2月16日(土)
各日①13:00~13:30 ②14:30~15:00
対象:3歳以上

● ときめきキモノ体験

日時:1月26日(土)、2月23日(土)、3月23日(土)
各日10:30~12:00(受付終了11:30)
定員:25名程度
対象:3歳以上

● 鬼の面を作ろう

日時:2月2日(土) 13:30~15:00
(13:20~会場前で整理券配布)
定員:25名
対象:5歳以上



● 浮世絵を組み立てよう

日時:2月24日(日) 13:00~15:00
(12:50~会場前で整理券配布)
定員:30名
対象:小5以上

● 舞扇子で遊びましょう

日時:3月16日(土) 13:00~14:00
定員:30名
対象:小学生以上

● 万華鏡で遊ぼう

日時:3月30日(土) 10:30~12:00
(10:20~会場前で整理券配布)
定員:15名
対象:3歳以上(幼児は大人と一緒に)



ミュージアムトーク

● 常設展示室のみどころを学芸員が解説します。 ● 日時:毎週金曜日16:00から
● 常設展示室5階の日本橋下までお集りください。所要時間は約30分です。

町の暮らし 1月11日、2月1日

企画展「春を寿ぐ—徳川将軍家のみやび—」みどころ 1月18日・25日、2月8日

開化の背景 2月15日・22日

江戸の美 3月1日

高度経済成長期の東京 3月8日・15日

企画展「市民からのおくりもの2018」みどころ 3月22日・29日

お問い合わせ 03-3626-9974(代表)

ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内 JR総武線「两国駅」西口から徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「两国駅(江戸東京博物館前)」A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営两国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2018年(平成30)12月21日(金)
編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
制作・印刷 美術出版社 デザインセンター

表紙解説

書棚(左)・厨子棚(中央)・黒棚(右)
黒塗松唐草牡丹紋 散蒔絵雑道具
公益財団法人徳川記念財団蔵



雑道具の際に雑人形とともに段飾りに並べられた雑道具。将軍家や大名家では、婚嫁にあたり特徴あるデザインで統一的に雑道具を制作し、婚嫁調度とともに調えました。まさに「雑」と呼べる道具でした。表紙は十三代将軍徳川家定正室篤姫の所用と伝えられる三棚の雑道具です。数多い雑道具のなかでも中心に飾られました。
(学芸員 齋藤慎一)

春を寿ぐ

徳川将軍家のみやび

平成31年1月2日(水)～3月3日(日)
常設展示室内 5F 企画展示室



「春を寿ぐ」と聞くと、ほのぼのとした心持ちになるものです。寒い冬を乗り越え、新年となつて迎えた春、この時期は新たな気持ちで前に進もうと思ひ定め

にあつたのは徳川将軍家と京都の宮家や摂関家との婚礼です。江戸と京都で婚姻関係が結ばれることにより、宮廷の文化が江戸城の大奥にもたらされました。そして、春を寿ぐ行事が徐々に江戸市中にまで広がったのでした。

先祖父の位牌に御膳を備え、座に戻るときに若水を恵方に向かつていただきました。この参拝は正月三日まで毎日行われまし

「春を寿ぐ」と聞くと、ほのぼのとした心持ちになるものです。寒い冬を乗り越え、新年となつて迎えた春、この時期は新たな気持ちで前に進もうと思ひ定め

にあつたのは徳川将軍家と京都の宮家や摂関家との婚礼です。江戸と京都で婚姻関係が結ばれることにより、宮廷の文化が江戸城の大奥にもたらされました。そして、春を寿ぐ行事が徐々に江戸市中にまで広がったのでした。

先祖父の位牌に御膳を備え、座に戻るときに若水を恵方に向かつていただきました。この参拝は正月三日まで毎日行われまし

あさぎ ちりめん じしゅうちくばいばくきく ちほしもんよう
小袖(浅葱縮緬地松竹梅桜菊網干文様)
公益財団法人徳川記念財団蔵
展示期間:1月2日(水)～2月3日(日)



東照宮御影元日拝礼
公益財団法人徳川記念財団蔵
展示期間:1月2日(水)～2月3日(日)

えました。他方、大奥では、色紙または短冊に歌をしたためる「御書き初め」や、源氏物語などの物語より御意に召したものを選んで披露する「御読初め」などが催されました。これらの儀礼の中に大奥の雅を垣間見ることができま

また、八代将軍徳川吉宗は、庶民のために飛鳥山や墨堤(隅田川)などを整備したことが知られています。この粋な計らいにより、これらの場所は今も桜の名所として受け継がれています。

information

企画展

「春を寿ぐ—徳川将軍家のみやび—」

開館時間: 9:30～17:30、土曜日は19:30まで。

入館は閉館の30分前まで。

休館日: 1月7日(月)・28日(月)、

2月4日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(月)

●常設展観覧料でご覧になれます。

料金: 一般600円、65歳以上300円、学生その他の料金は当館ホームページをご覧ください。

主催: 東京都、東京都江戸東京博物館、公益財団法人徳川記念財団



銀細工 兜に梅の花一枝(左)・銀細工 猷兔賜盃(右)
公益財団法人徳川記念財団蔵



文台(黒塗牡丹唐草葵浮線菊紋散蒔繪雑道具)
資料番号88290098



掛袱紗(紅縮緬地竹に鶏文刺繍)
公益財団法人徳川記念財団蔵
展示期間:2月5日(火)～3月3日(日)

常設展
のみどころ

江戸ゾーン「江戸の美」コーナー
平成30年新指定重要文化財
「蔓梅擬目白蒔絵軸盆」

平成31年1月2日(水)～1月27日(日)

平成30年に重要文化財に新指定された資料をこの度公開します。江戸の画家、蒔絵師、そして豪商の交流により生まれた作品です。下絵を描いた酒井抱一は、京都の依屋宗達と、尾形光琳が築いた琳派様式に、江戸の洗練や好みを加えた「江戸琳派」を興した人物です。作者の原羊遊齋は、江戸後期に活躍した蒔絵師で、江戸琳派が下絵を描いた作品を数多く手掛けました。

図様は、秋から初冬に朱色の実をつけるツルウメモドキを軸盆の外側



重要文化財 蔓梅擬目白蒔絵軸盆
原羊遊齋作 酒井抱一 下絵
1821年(文政4) 資料番号91210668

に這わせ、枝にメジロを配しています。ツルウメモドキの蔓は金薄肉高蒔絵、実は紅珊瑚、メジロは金、銀、青金などの粉蒔絵仕上げと、高度な技法が施されています。黒漆地の軸盆は、巻子を二巻のせることを想定した意匠となっています。江戸有数の材木商森川家の注文により制作されたことが、伝来する書状から明らかになっています。文化文政期を中心に展開した江戸の文化人ネットワークを背景に持つ優美な漆工品です。

(学芸員 西村直子)

キュレーターズ・
チョイス
Vol. 2

江戸博物館コレクションから
「鹿島明神
各地の鯰退治の図」

1855年(安政2)10月2日の夜、江戸に大きな被害をもたらした安政江戸地震が発生した。この地震の直後から数カ月の間に、「鯰絵」と総称される地震と鯰を題材とした数多くの瓦版類が出回った。地震は地下で鯰が起すものという俗信は、すでに江戸前期頃からあったが、この安政江戸地震をきっかけに急速に広まったという。

そのなかの一枚をみてみよう。これは画面右上の鹿島明神の前に並んで、取り調べを受けている鯰たちの様子を描いたものである。地震は要石とよばれる霊石によって鎮められると考えられており、その霊石は鹿島神宮(現茨城県鹿嶋市)と香取神宮(現千葉県香取市)の2カ所に祀られていた。本図は江戸の地震を起こした鯰の頭上に要石が置かれ、罰を受けているところで、鯰・鹿島明神・要石が描か



鹿島明神 各地の鯰退治の図
1855年(安政2) 資料番号88208561

れる典型的な鯰絵である。画面下の六匹は、過去に信州・小田原・越後・甲州・大坂・関東に地震をもたらしした鯰で、安政江戸地震を含め大地震を擬人化している。鯰たちが、地震を起こした罪の裁きを待ちながら、口々に洒落を交えた言い訳をしている姿がユーモラスに描かれている。

(学芸員 眞下祥幸)

図書室から
お知らせ

本の修復記録

写真は、破損していた「文藝倶楽部」(1908年(明治41)1月発行)という雑誌の修復後の記録写真です。あまりきれいになっていないが、どこを直したのだからと思われたかもしれません。図書室の本は、博物館の歴史資料として展示されることもありまから、発行当時そのままの姿をなるべく保つ必要があるのです。実は「修復し過ぎ」にも気をつけなくてはならないのです。

このような場合は、本の修復の専門家にお願います。埃やホツチキス留めされた箇所を錆の除去、酸化した紙の脱酸性化処置などを慎重に行います。また、破れた所に使用する和紙や綴じ紐を本に合う色に染めるなどして、「見ただけでは修正したところ感がわからないように、しかし展示などにも耐えらるよう堅牢に仕上げてもらいます。そしてどのように修復したか、過程のわかる詳細な記録と共に、このような記録写真を残し、後世に伝えていくのです。



「文藝倶楽部」第14巻第2号
資料番号13604657

国際交流
事業

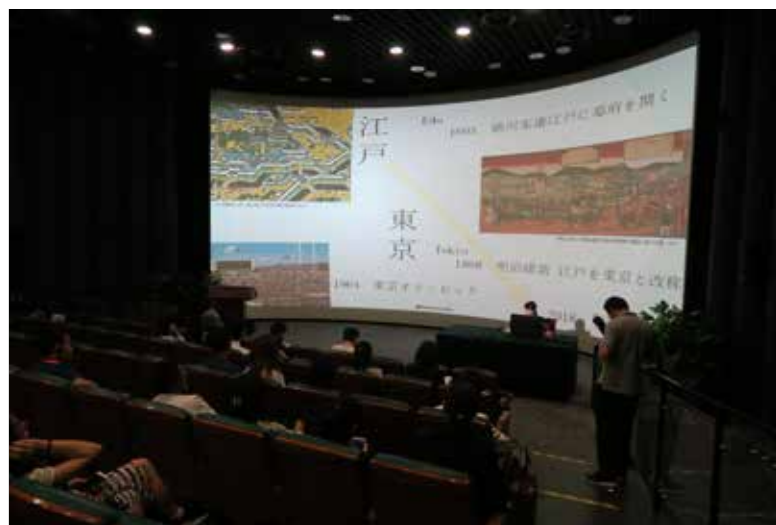
第17回日中韓博物館国際シンポジウムに参加しました

2018年(平成30)8月15日、中国・北京市の首都博物館で日中韓博物館国際シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、当館と首都博物館、ソウル歴史博物館(韓国)が毎年持ち回りで開催する形で2002年(平成14)に始まり、2006年(平成18)からは瀋陽故宮博物院(中国)を加えた3カ国4館で交流が続いています。

第17回目となる今年も、「資源共有と学術協力―「首都学」からみる博物館の密接なつながりについて」というテーマのもと、各博物館における取組み事例の報告と情報交換が行われました。博物館収蔵品やデジタル技術を活用した教育プログラム、展示、地域貢献活動など全9本の発表内容は多岐に渡り、当館からは「江戸東京博物館が収蔵する三大コレクション(石井コレクション・赤木コレクション・喜多川コレクション)」と「江戸東京博物館 図書室の活動」について報告しました。

質疑応答では、収蔵庫設備など実務的な内容に加えて、「北京学、ソウル学に対して江戸東京学とはどういうものか?」という質問があり、日中韓それぞれの立場から「首都学」を軸にした活発な意見交換がありました。「変化してゆく都市の記憶を継承する」という共通の使命を持った各博物館にとって、今回のシンポ

ジウムはその足元を見つめ直す良い機会となったように思います。今後も交流を重ね、互いの歴史や文化に対する理解をより一層深めていきたいと考えています。



「江戸東京博物館 図書室の活動」をテーマに発表する当館司書

久保田米僊を紹介する。1852年(嘉永5)に生まれ、1906年(明治39)55歳で没した日本画家である。時の流れとともに忘れ去られた人物はあまたいるが、米僊もその一人である。

京都の小料理屋の二子として生を受けた米僊は、絵心に富む少年であった。鈴木百年の門に学び、幸田棧嶺とともに、明治維新以後、衰微著しい京都画壇の再興に力を尽くした。その一方、多くの新聞、雑誌の挿絵を描いたことで、広く名が知られる存在でもあった。1889年(明治22)にはパ

リ万国博覧会に私費で渡航し、「渡航画報」と題して、「京都日報」に連載した。写実味豊かな挿絵と軽快な文章で道中の出来事を綴ったこの連載は、徳富蘇峰の目にとまり、1890年(明治23)国民新聞社に迎え入れられた。これを機に、米僊は家族とともに上京する。以後、拠点を東京に置き、饗庭篁村ら根岸党との交流も深めていく。1893年(明治26)、シカゴ

万国博覧会の開催にあわせ、米僊は再び私費で渡航するが、今度は「国民新聞」に「渡航画報」を連載する。連載期間は、約10ヵ月と長期にわたった。本来の目的であった博覧会の報告はもとより、革命で揺れる寄港地・ハワイの事情や、不幸にも船内で亡くなった乗客の弔いの様子、さらに、アメリカ国内での「珍道中」のこと、出会った人々など多彩な内容であった。時に辛辣な意見も交えつつユーモアにあふれた彼の「画報」は、当時の読者をさぞ楽しませたであろう。

幕末から明治にかけて、すでに多くの日本人が欧米に渡りその見聞を広めていた。ただし、そのほとんどは、公的な視察や公費留学といった目的であった。米僊のような画家が、「博覧会見物」を目的に渡航することは稀であった。しかも短期間のうちに、東廻り、西廻りの両航路で欧米に渡っているのである。彼の見聞記は、当時の日本人に、文明の先端を行く欧米諸国の実態を伝えるとともに、途中立

ち寄った国々の土着の文化や風俗をも広く知らしめる役割を果たした。「博覧会」を伝える目的での渡航であったが、米僊の残した挿絵や記事を見ると、彼の興味は博覧会で誇示される欧米の先進技術にはなく、むしろ植民地化の波に飲み込まれた民族の習慣や衣装、道具、舞踊、芸能に向けられていたように思う。素直で屈託のない彼の記事は、今読んでもまざまざと情景が目につかぶ、絵をものする者ならではの楽しいものである。自らの眼で見、耳で聴き、肌で感じたことを、生き生きとした挿絵とともに伝えた米僊の記事は、視覚を伴ったルポルタージュの嚆矢であったとも言える。

多くの市井の人々が目にする新聞というメディアで、遠い異国の風物が挿絵というビジュアルイメージを伴って、当時としては最小限の時差一つま「リアルタイム」で伝えられた。これら米僊の異国観は、その後の日本人のエキゾチズムに少なからぬ影響を与えたに相違ない。



「日本雑貨販売館」(第4巻 91212021)



「美術館陳列高村光雲作木彫大猿」(第3巻 91212020)

久保田米僊画・作 大倉書店発行 1893年(明治26)~1894年(明治27) 資料番号91212018~21 シカゴ万国博覧会の会場の様子や、出品されていた絵画、工芸作品を色鮮やかに描いた全4巻の木版画集。米僊は、シカゴ滞在中にこれらの原画を描き、先に帰国する知人に託して版元に送ったようだ。ちなみに、1893年のシカゴ万国博覧会は、コロンブスのアメリカ大陸発見400年を記念したものであった。表題に「開龍」とあるのは、これによる。

年末年始の開館のご案内

~1月2日・3日は常設展観覧料無料~

2018年12月25日(火)から2019年1月1日(火・祝)まで休館です。年始は1月2日(水)から開館します。また、1月2日(水)・3日(木)は常設展示室観覧料が無料となります。※図書室は2018年12月11日(火)から2019年1月4日(金)まで休室です。

2019年(平成31)江戸東京博物館 開館日・休館日カレンダー

■ 休館日 ■ 臨時開館日 ■ 図書室休室日 ※ 祝日・休日(赤字)は2018年(平成30)12月1日現在

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

※一部施設の休室や開館日を変更する場合があります。最新の情報は当館ホームページをご確認ください。

当館大ホール・小ホール・会議室・学習室の貸出について

2017年10月より、江戸東京博物館ではホール等の貸出施設の改修工事を行っています。この度、会議室・学習室は2019年7月から、大ホール・小ホール(これまでの映像ホール)は8月から、貸出を開始することとなりました。

貸出にあたっては、これまで通り、原則として利用月の6ヵ月前からご利用の申請を受け付けますが、伝統芸能、民俗芸能その他伝統的な文化に係る公演等は、一般貸出に先行して約1年前から申請を受け付けます。

詳細につきましては、当館ホームページをご確認ください。



大ホール 完成イメージ